



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	東京大都市圏外縁部における農産物産地の生産・流通システムの再編成( 審査結果の要旨 )
Author(s)	深瀬, 浩三
Citation	
Issue Date	2014-03-14
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2309/136193">http://hdl.handle.net/2309/136193</a>
Publisher	
Rights	

## 審査結果の要旨

### (1) 研究の目的に意義や独創性があるか。

本論文は、高度経済成長期以降の東京大都市圏外縁部（東京都心から 60~80 km に位置する地域）において、農産物の生産・流通システムの再編成による農産物産地の発展プロセスを分析・考察した研究である。東京大都市圏の拡大によってその外縁部では、従来あった農業は急速に専門化、産地化の道をたどった。このような動向に目を向けた本論文は、その変化のプロセスがいかなる地域的要因によって進行してきたのか、農産物産地がいかなる地域的メカニズムによって維持・発展しているのかを解明したものである。

具体的には、埼玉県内の青果物産地と花き産地を事例対象地域とし、生産農家や農業協同組合が構築している経営戦略を踏まえつつ、産地の生産・流通システムが再編成されるプロセスを解明した。その際、このプロセスを地域の自然環境や農村社会など地域内にある「内的要因」と、大消費地東京における農産物への需要、輸入農産物との競合、さらにはグローバル化による市場の変化といった地域外の「外的要因」の双方からアプローチしており、農産物産地を多面的に考察した点においてこれまでの研究にない独創性に富んだ成果と評価できる。また、農産物産地に関する従来の研究が生産を重視してきたのに対して、本論文は消費者の嗜好や流行といった食の需要を踏まえたフードシステム論も視野に入れており、農産物産地の動向が消費者の意識に左右されることを指摘した点でユニークな研究になっている。

### (2) 研究の方法は当該学問分野において妥当なものか。

地理学において農産物産地の特性を解明することは、とりわけ農業地理学や農村地理学の分野における関心事であり、これまで農家・集落といったマイクロなスケールでの分析・研究方法がとられてきた。本論文では、埼玉県の青果物産地として 4 つの地域事例、花き産地として 3 つの地域事例を対象にして、生産農家レベルでの生産・出荷戦略を聞き取りによって把握するという手順がとられた。これにより農家ごとに経営規模や農地利用、労働力、経営形態に関する資料の収集が行われ、生産および流通システムが従来のものから大きく変化してきたことが明らかにされた。一貫して現地調査に基づく精緻な分析がなされており、分布図やグラフなど数値情報を図化する作業を通して、地理的現象に関する考察は高い水準に到達している。地域の動態を実証的に解明する地理学研究として適切な方法に基づいた研究とみなすことができる。

### (3) 研究資料やデータの収集と分析が適切になされているか。

本論文は、国勢調査や農業センサスといった統計類と、現地で実施した個別の農家や農業協同組合における聞き取り調査、さらに現地観察に基づく土地利用調査によって得られた資料を分析対象としている。高度経済成長期以降の農産物産地の変化を明らかにする研究において、1960 年代以降の生産・流通の変化を示すために適切な統計と聞き取りがなされており、産地がいかに変化・発展してきたか、そのメカニズムを実証するに十分な分析がなされている。

### (4) 研究の考察と結論が妥当であり、学術的な水準に達しているか

本論文は、東京大都市圏外縁部において農産物産地が変化するプロセスを、生産・流通システムの再編成に着目して考察したものである。この研究目的に対して、産地内部における要因と産地外の要因に分け、それぞれが相互に関係しあうことによって、従来あった生産・流通システムが変容・再編成されるという結論は、産地形成・発展に関する研究に新たな知見をもたらすものとして評価できる。とりわけ農家の経営戦略という個別事例に基づいた考察は、東京大都市圏外縁部という立地要因と、グローバル化の影響が顕著な市場の動向に応じて、農家がいかなる営農戦略をとり、青果物と花きの生産の拡大を達成させているかを浮き彫りにさせた。その結果、農産物産地がどのような変化を遂げてきたのか、その地域的なメカニズムを解明したことは、農業地理学における新しい成果として高く評価できるだけでなく、農家というミクロなスケールに着目しながらグローバル化というマクロスケールでの要因とのかかわりを検討するという、地理学が追及する地域構造の解明に新しい視点と成果を提示した点においても、学術的に高い水準に到達した研究である。

なお、本論文の中核をなす青果物産地に関する研究の一部は、立正地理学会の機関誌『地域研究』に、また花き産地に関する研究の一部は日本地理教育学会の機関誌『新地理』および立正地理学会の『地域研究』に発表されており、いずれも高い評価を得ている。さらに2009年には、「埼玉県内をはじめとする都市近郊の園芸産地に関する研究」を精力的に進めてきたことに対して、立正地理学会より田中啓爾記念地理学奨励賞が授与されている。

#### (5) 取得学位にふさわしい意義や成果が認められるか

本論文は、地域の自然環境や歴史的背景、社会組織、戦略としての経済活動など、地域を取り巻く多様な事象を総合的視点から検討しており、農業地理学のみならず、多様化する現代社会を扱う社会科の学習内容を新たに展開させることに寄与しうるものである。この点で、今後の社会科教育における地理的分野を検討するうえで重要な基礎的研究であると評価できる。

以上から本審査委員会では、本論文が学位取得論文としての水準を十分に満たしており、博士(学術)の学位授与にふさわしいものと全員一致で判断し、合格と判定した。